

「埼玉で農ある暮らし方」は人それぞれだけど、想いは共通するのでは？  
埼玉に移り住み、実際に農に関わる暮らしを楽しむ3人の女性が語り合いました。



秩父へリターン、カエデの樹液を軸に商品開発、エコツアー企画  
**井原 愛子さん**  
Ihara Aiko  
シュガーハウス「MAPLE BASE」プロデューサー / 「TAP&SAP」代表

ときがわ町へ移り住み  
地元産の原材料にこだわる和紙づくり  
**谷野 裕子さん**  
Tanino Hiroko  
手漉き和紙たにの代表

有機農業に魅力を感じ  
小川町へリターン、  
移住希望者のサポートも  
**八田 さと子さん**  
Haita Satoko  
小川町移住サポートセンター  
移住相談員

きっかけはそれぞれ、  
でもたどり着いた  
「埼玉で農ある暮らし」

― 始めに、埼玉で暮らすことになった経緯と現在の活動をひとこと御紹介ください。

**谷野** この女子会の会場として、私の和紙工房のようにお越しくださりました。紙漉き職人として和紙をつくること、これが私の仕事です。

もともと東京都内で会社勤務をしていましたが、仕事の関係で埼玉に来たことがきっかけで、ときがわに住むようになりました。あれからもう約20年になります。

**井原** 私は秩父出身で、就職してから都内で暮らしていました。秩父の山を守る活動に感銘を受け、会社を退職し秩父に戻ってきました。秩父で森の資源の商品化やエコツアーのプロデュースをしています。

**八田** 有機農業に関心をもったのが縁で、東京都内から小川町へ移り住みました。オーガニックビジネスプランナー、小川町への移住希望者のサポートなど、地域、食、農にまつわるコーディネーターをしています。

### 農と関わる暮らし、 そのストーリー

―「自身にとっての「埼玉での農ある暮らし」に



**profile**  
30代で紙漉き職人を目指し、ときがわ町に移住。ユネスコ無形文化遺産にも登録された細川紙の正会員として工房「手漉き和紙たにの」を主宰するほか、学校、博物館、美術館などで和紙づくりの指導、講演なども行う。細川紙技術保持者、埼玉伝統工芸士、彩の国優秀技能者。

ついてお聞きします。

**谷野** そもそも和紙づくりは農業の一部ととらえています。昔は、農家が畑の端の空いたスペースで和紙の原材料のこうぞを栽培し、農閑期の冬に和紙に加工していました。私は地のものにこだわった和紙をつくりたかったので、ときがわ町でこうぞや和紙のつなぎの役割をもつトロアオイの栽培を復活させ、ときがわ産の材料で和紙をつくっています。

### profile

茨城県出身。有機農産物の流通会社や環境NGO勤務などを経て、オーガニックビジネスプランナーとして活動。有機農業の縁で小川町に移住、4年前に結婚し、家族と半農半Xの暮らしを模索中。小川町周辺で食・農などに関わる地域振興や、起業コーディネーター、そして2016年から小川町移住サポートセンタースタッフとしても活躍している。女子栄養大学非常勤講師。

**井原** 地の恵みに注目した点は私も同じです。私は、森の活動から私

まれた新しいカテゴリーのはちみつ「第3の蜜」を販売したり、山を守る活動を知ってもらうエコツアーの企画などを事業化しました。

**八田** お二人の話聞いて、埼玉で農と関わるいろいろな暮らし方があることに改めて気づきました。

私は大学で栄養学を専攻し、もともと食や有機農業に興味があったので、東京で有機農業の普及啓発事業の仕事をしていました。そこで有機農家の方々と出会ったことがきっかけで、いずれは自分も自給的な暮らしがしてみたいと漠然と考えていたところ、小川町での有機農業推進に関わる活動に参加する機会をいただいたんです。それをきっかけにこの地域の人の魅力、町の魅力に気づき、移り住むことにしました。

今は、この有機農業を求めて、東京から農業をやりたいと小川町にやって来る方々が、移住も視野に入れて相談に訪れるので、そのサポートをする仕事をしています。

―農との関わりのある暮らし、それぞれにストーリーがあるんですね。

**谷野** かつて

はときがわ町でも、こうぞやトロアオイを地元でつくって紙漉きをしていたのですが、需要がなくなっただけか生産が途絶えていました。地元で生産された原材料を使ってつくった地元産和紙にこだわっています。紙漉きで使用する水も同じです。この工房では、水道水ではなく、井戸を掘って地下水を使っているんです。

**井原** こだわりますね。

秩父のカエデの活動は、始めた方々の考えがもとになっていきます。林業だとよく「伐った木で何かつくろ」という方向が多いのですが、この活動には「伐らない林業」という考え方もあります。カエデの樹液は幹に穴をあけて採取します。伐つてなくなってしまうのでなく、毎年採れるんですね。その樹液からメープルシロップができます。

「伐る林業」では、山の持ち主さん

### 地元の方々の 支えのおかげ

に渡る利益はわずかです。しかし、伐らずにカエデの樹液を採って売ればお金になり、山に還元できる仕組みができます。杉、ヒノキを切つて、その場所にカエデを植えて…。そんな「伐る林業、伐らない林業」を、今、秩父の森のモデル地にて取り組んでいます。

―みなさん、それぞれの地域で密接に農とかかわって暮らしているらしやることがわかりました。次に、地域での普段の暮らしについてコメントをお聞かせください。特に



## 埼玉っていい！

移住を考えている方への  
エール



埼玉なら  
一大決心  
しなくてもいい。

始めは秩父に戻るつもりはありませんでした。でもUターンできた理由の1つは、都内と秩父が離れすぎていなかったから。はじめから一大決心しなくても、移住する方法があるのでは。ぜひ一步を踏み出してほしいと思います。それも、大股の一步じゃなくてOKです。



自分を見直す環境が  
ちゃんとある！

埼玉は「人間が生きていく良い環境」が残されているところ。充電できる場所だと思うんです。そんな暮らしの中にいると、人間の本質の部分も見えてくるのではないかと思います。自然からもうエネルギー、いっぱいありますよ。



地域の中で  
つながることが  
大切

考えていること、興味があること、その地域に暮らしていることの「つながり」の中で、助けてもらったり、助けたり……。私もそうでしたが、来れば、いろいろな人と「つながり」ができていくと思います。

井原さんのご紹介ページは⇒p10



これからの可能性についてお聞かせください。

**谷野** 埼玉の外から来た人間だから感じるのかもしれませんが、地域には「いっぱい、いいものが埋まって

八田さんは、小さなお子さんのママでいらつしやいますが、子育ての面でお住まいの小川町はどのように感じていますか？  
**八田** 私は小川町に移り住んでから結婚、出産し、今は夫、3歳の娘と暮らしています。出産に関しては、産婦人科のある病院、助産院を探すのに少し苦労しましたが、地域で知り合った方々から情報をいただけました。出産後も、地域の友人たち、特に先輩ママからは、いろいろ助けてもらっています。お下がりをお願いしたり、育児に関する情報交換ができるのもありがたいです。  
**井原** 地元の方々に支えていただけるのはありがたいですよ。私は、地元NPO主催のエコツアーに参加し、先ほど申し上げたカエデの活動に感銘を受け、もっと若い人たちが活動に関われる仕組みづくりや、活動のPRに携わりたくと考えたのです。最初は、それで食べていくのはまだ早いのでは？と周囲の反対がありました。でも、カエデの活動を行っている方を始め地元のいろいろな方々が応援してくれたおかげで、今、自分の力エデに関わる

―最後に、埼玉の農ある暮らしの

### 埋もれた地元の イイモノを発信したい

事業が動き始めた実感しています。秩父のMAPLE BASE (P10参照)も、みんなが手伝ってくれました。地域の人たちはもちろん、インターネットで参加者を募って、壁にペンキを塗ってもらったりしましたよ。  
**谷野** 私もこれまでいろいろな方々に助けてもらいました。夫と、当時まだ小さかった息子と3人で移り住み、やがて夫の両親も呼んで一緒に暮らしたのですが、紙づくりの勉強や仕事と、家事・子育て・介護を両立させるのは大変でした。それでもやってこられたのは、多くの方々に助けていただいたおかげです。例えば、子どもが小さい頃、毎日慌ただしくて、「うちの子の半分は、よその家のご飯でできている」と言ってもいいくらい、子どもは近所でもよくご飯をいただきました(笑)。こんなこと、都会に住んでいたら、なかったでしょうね。



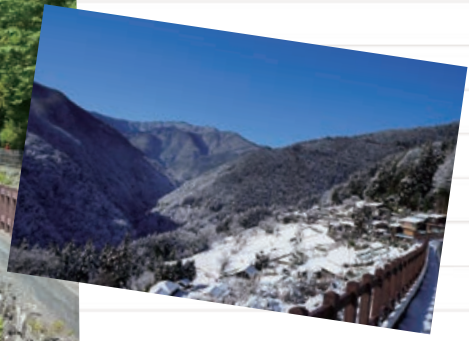
いるなあ。と思います。だから、それを掘り起こしてあげたい。  
**井原** 「埼玉にいいものが埋まっている」という実感、私にもあります。今、秩父は「埋もれた資源の活用」と言えそうな新たな活動が始まっています。ところでみなさん、キハダって、ご存知ですか？  
**谷野** 昔は紙の染色にも使われた木ですね。漢方薬にもなるのでは？

**井原** ええ。抗菌効果があって、キハダで染められた紙の古文書などは、虫に食われずに残るそうです。そういった昔の知恵を掘り起こし、キハダを使って、体に優しい「苦

いサイダー」をつくったんです。  
**八田** 井原さんが取り組むカエデやキハダ、谷野さんが復活させた紙すきの原材料、どれも宝物ですね。私は小川町への移住を希望する方の相談に乗る仕事をしています。埼玉の農ある暮らし、いわゆる地方暮らしを考えている人は、外からの視点でそういった宝物を見つけ出す可能性を秘めているのではないかと思います。  
**谷野** 身近にありすぎると、気づかないってことって、あるでしょ。昔から埼玉で暮らしてきた方と、Uターンで戻ってきた人、外から来た私たちのような人たちがうまく融

合していけば、意外な発見をし、魅力あるものをつくっていけるのではないかと思います。  
**八田** そうですね。私も越生町の梅農家さんから相談を受け、女子栄養大学とつながってみました。「梅を使って、越生のお土産をつくらう」と。授業のテーマとして、学生たちと取り組みました。  
**井原** 一人ではできないですもんね。埼玉は、隠れた地域のいいものを見つけられる人、地域の資源を上手に活かせる人、それを上手にPRできる人、いろんな人が結びついて新たなパワーが生まれる場所だと思います。





春から初夏にかけての栃本(左)と冬の栃本(右)

元秩父市地域おこし協力隊  
吉本隆久さん



Yoshimoto Takahisa

移住先は  
埼玉のマチュピチュ?!

秩父市の山村地域、旧大滝村の栃本地区へ移住し、  
田舎暮らしをしている平成生まれの吉本さんが語る!  
栃本の魅力、吉本さんの取組や、これからの栃本のこと。

# 秩父 栃本 移住レポート

Theme:

Text&photo: 吉本隆久

「栃ふさ」ワークショップ。  
鳥獣害対策のために  
電気柵を設置中



## 03. 今取り組んでいることは

魅力を伝えるために!

「栃本ふるさとプロジェクト」(略称: 栃ふさ)を立ち上げ、栃本好きの関東各地の方々と耕作放棄地を葡萄畑として再生させたり、地域のお祭りの手伝いをしたりと、地域に根差した活動しています。栃本をより魅力的な地域にして、移住者を増やしていくのが私の使命だと思っています。

## 04. これからの夢

観光客や移住者が増えるよう、  
栃本にカフェやゲストハウスを作りたい  
と思っています。

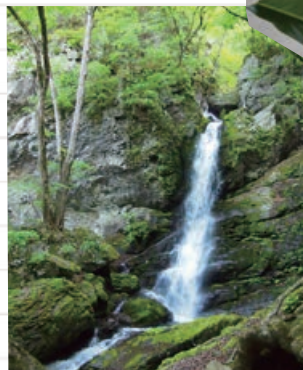
## 05. 移住を考えている方へ

都会に暮らす人にとって田舎というのはまさに異世界だと思います。楽しいこともあれば辛く感じることもあります。でも、辛いことがあっても地域の方がたくさん助けてくれます。田舎の暮らしでは、人と人の関わり、サポートが重要です。

一人で何でもやろうと思わずに、まずは地域との関係作りから始めてみてください。

活動に興味がある方、まずはFacebookページへ

栃本ふるさとproject



栃っ葉饅頭  
作り方を地元のおばあちゃんに  
教わりました。

不動滝  
栃本の近くにある、  
落差50m程の立派な滝。

## 01. 移住のきっかけと今の仕事

私は地域おこし協力隊として3年間秩父市の大滝地域で活動し、その活動の中でとくに好きになったのが栃本集落でした。引っ越し先を探している時に、タイミング良く空き家を片付けている方と知り合うことができ、栃本への移住が決まりました。

今は秩父樹液生産協同組合に勤めています。メープルシロップの原料であるカエデ樹液の生産を行うとともに、より豊かな山林の育成のための人工林の間伐とカエデの植樹を行っています。また山林の価値や魅力を広めるため、新商品の開発等も行っています。



縁側から見た外の景色

## 02. 栃本の暮らしの魅力

昔ながらの暮らしがおもしろい

薪ストーブやかまど、ピザ窯、ロケットストーブ等、栃本では薪を使う生活ができます。火を眺めているとそれだけで落ち着きます。また、羽釜で炊いたご飯はとても美味しいです。

地域の皆さんは畑で採れた野菜を分けてくれたり、夕ご飯を作って待っていていたり、とても優しくしてくれます。その代わり、という訳ではありませんが、地域の皆さんからもおつかいを頼まれたり、力仕事や機械の簡単な修理などを頼まれたりします。それもまた嬉しく思います。



かまどで炊飯中

栃本で毎晩見られる星たち